

2010年度全国社会福祉教育セミナー テーマ

「福祉系学部等におけるキャリア 支援教育のあり方を探る」

1. 開催主旨

- 福祉系学部等においては、昨年度より新たな社会福祉士養成課程が開始されており、より高い実践力を有した社会福祉士の輩出が求められている。精神保健福祉士においても、新たな養成課程の内容がすでに提起されている。社会の要請に応える人材養成の成果が問われる一方、今後これらの養成教育を受けた学生が、ソーシャルワーカー等の社会福祉専門職として、社会で活躍する場に適切に採用され、その後さらにスキルやキャリアアップが確実に図られていくことが重要である。しかし、福祉系学部等における社会福祉関係への就職比率は、近年やや減少傾向にある。一方、リーマンショック以来、一般企業への就職については非常に厳しい状況にあるのは周知のとおりである。
- 本セミナーでは、特に初日のシンポジウムにおいて、社会福祉関係職への求人動向や就職動向の実態を踏まえながら、大学等においていかに社会人基礎力を形成し、ソーシャルワーカーなど社会福祉専門職へのモチベーションを高めるなど、現場に求められる人材の養成としてのキャリア支援教育のあり方について、事例を踏まえながら探ることとする。また、社会福祉法人等の採用側からは、採用の実績を踏まえたその考え方、大学等に求める養成教育のあり方についてうかがうこととする。
二日目の分科会では、初年次教育、実習、高大連結、司法福祉等に関するテーマを設定して論議を深めることとしている。

2. 主催：(社) 日本社会福祉教育学校連盟 (第40回)
(社) 日本社会福祉士養成校協会 (第9回)
(社) 日本精神保健福祉士養成校協会 (第5回)
- 後援：文部科学省、厚生労働省、法務省、
(予定) ソーシャルケアサービス従事者研究協議会、
(社) 日本介護福祉士養成施設協会

3. 開催期日：2010年11月13日(土)～11月14日(日) 2日間

4. 会場：○ セミナー会場 大正大学巣鴨キャンパス (P9参照)
○ 教育交流懇談会 会場(2号館8階)

5. **参加対象** : (社)日本社会福祉教育学校連盟・(社)日本社会福祉士養成校協会・(社)日本精神保健福祉士養成校協会・(社)日本介護福祉士養成施設協会会員校の教員、その他大学院生(学部生)、社会福祉教育関係者、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会の関係者等

6. **申し込み方法等** : ①参加申込:2010年10月20日(水)までに別添の申込書に記入の上、お申し込みください。
②参加費:お一人10,000円大学院生4,000円(会員校の学部生も参加可:無料)
教育交流懇談会の参加費は別途=7,000円

※基本的に2日間の全日参加とします。1日のみの参加費等の設定はありませんのでご了承ください。

セミナープログラム

11月13日(土)

13:00 受け付け開始 大正大学巣鴨キャンパス礼拝堂入口

13:30 開会 あいさつ

13:50 シンポジウム

テーマ「福祉系学部等におけるキャリア支援教育のあり方を探る」

社会福祉士養成課程の見直しは、一方で社会福祉士がその期待される専門性を養成しえたかという疑問に端を発していたが、他方では、社会福祉士が社会福祉領域において正当な職を得てきたかという疑問も含まれていた。そこに、職域拡大・任用拡大という政策意図も含まれていた。つまり、社会福祉の領域の職務を担う者の排出に関する社会福祉教育の位置・異議・責任の重大性は歴史的にも認識されてきたのである。

しかし、現実には卒業生の「福祉職離れ」が起きていることも指摘されている。これまで、社会福祉士養成校の「入口問題」における諸問題が危機的に語られてきたが、この就職等の「出口問題」も客観的に分析され、それと「入口問題」が結合されなければならない。

本シンポジウムは、このような趣旨の下で、これまで蓄積されてきた『社会福祉系学部・学科、大学院卒業生の進路等調査』結果が何を物語るのか、「出口問題」を養成校及び現場がどのように捉えているのかを明らかにすることによって、社会福祉教育上の今後の課題・方向を検討したい。

コーディネーター 米本 秀仁 北星学園大学社会福祉学部教授
日本社会福祉教育学校連盟副会長・社会福祉専門教育委員会委員長

高山恵理子 上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
日本社会福祉教育学校連盟社会福祉専門教育委員会委員

これまで学校連盟社会福祉専門教育委員会が実施してきた「福祉系学部・学科、大学院卒業生の進路等調査」結果について、過去5年分くらいを総括し、いわゆる「出口問題」に関する課題提起を提起することとする。

シンポジスト

- 基調報告 白川 充 仙台白百合女子大学人間学部総合福祉学科教授
日本社会福祉教育学校連盟社会福祉専門教育委員会委員
- 大学側 東 奈美氏 東海大学健康科学部社会福祉学科准教授
- 大学側 川島恵美氏 関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科准教授
- 採用側 菊池達美氏 社会福祉法人那須共育学園・あいのかわ福祉会理事長
- 採用側 小林昭代氏 東京都八王子市健康福祉部長・福祉事務所長

17:30 終了・移動

18:00 教育交流懇談会：「2号館8階」

11月14日(日) 9:30~12:30 分科会

※ 14日の分科会・特別企画の分科会は、各一つの参加になります。他への参加はできません。
申込書にて参加を希望する分科会を記入してください。

分科会のテーマおよび内容

分科会No	テーマ(担当者)	主な内容
第1分科会	<p>社会福祉基礎教育の効果を高めるための「個別支援」のあり方を考える</p> <p>コーディネーター：宮嶋 淳 (中部学院大学)</p> <p>発題者：松岡 信之 (国際基督教大学)</p> <p>木船 久雄 (名古屋学院大学)</p> <p>米村 美奈 (淑徳大学)</p> <p>コメンテーター：齊藤くるみ (日本社会事業大学)</p>	<p>初年次教育並びに社会福祉基礎教育をテーマに開催してきた第1分科会では、2010年度は、表題の『個別支援のあり方』を取り上げる。従来からの議論の中で、基礎教育の軽視や講義中心教育からの脱却や、コミュニティの持つ教育機能の活用などの課題が明らかになっているが、今回はその中でも特に緊急の課題と考えられる学内での学生の「学習支援に結びつける個別支援のあり方」を、色々な角度から検討してみたい。特に、将来他者の個別支援を業とする可能性が大きい社会福祉関係の学生諸君にとって自分が『個別支援』の対象として支援される(または、されない)体験は大きな意味をもつ。そのためには、「(期待される)学生像」にも焦点をあてる。個別支援では組織としての大学が明示している「学生像」と教員が認識している「学生像」とのギャップ、あるいは教職員が抱えるジレンマが議論の出発点となる。</p> <p>そして、ギャップやジレンマを埋めるために昨今、大学で配置が進む「アカデミック・カウンセリング」「キャンパス・ソーシャルワーカー」や「学校管理者面接」等特徴あるプログラムを議論のツールとして用いる。とりわけ、他校がすぐにでも取り込むことが可能なソフト面の工夫を重視する。</p> <p>つまり、2010年度の第1分科会は教員が学生に対して授業として直接行う教育・教授ではなく、教育・教授の効果を高めるために、大学内で用意されるべき学生支援のソフト面の整備について検討していこうとするものである。換言すれば、教員の授業における「教授力」と学生支援における「教育力」のコラボレーションの効用に関する議論を進めようとするものである。</p>

<p style="text-align: center;">第2分科会</p>	<p>相談援助実習関連 (社養協実習委員会・連盟社会福祉専門教育委員会)</p> <p>コーディネーター：米本 秀仁 (北星学園大学)</p> <p>発題者：川上 富雄 (駒澤大学)</p> <p style="text-align: center;">調整中 (北星学園大学)</p>	<p>社会福祉士養成において「相談援助実習」の重要性は言うを待たないが、社会福祉士養成課程の見直しにおいても、当実習の「質の担保及び標準化」が強調された。社養協は、これに呼応して相談援助実習の厚生労働省シラバスを展開するための「実習ガイドライン」を作成し、これに基づいて実習目標と対応する「実習評価表」の標準化の試案を出した。実習評価表は実習の到達点（達成度）を測る項目を明示する者であるが、他方で、標準化を図ろうとするならば、その到達点に至る過程の標準化もまた整備される必要がある。この試みの一端が、実習前評価システムであり、いわゆる CBT・OSCE の試みもここに含まれる。</p> <p>本分科会は、以上の趣旨に基づき、実習の「質の担保及び標準化」を目指した実習評価表の標準化及び実習教育課程の標準化の一方法としての OSCE について、その実際を施行しつつ検討する。</p>
<p style="text-align: center;">第3分科会</p>	<p>社会福祉教育における高・大連結の理念と実践 ～「社会福祉教育における高大連携」に関する調査等をもとに～</p> <p>コーディネーター：田村 真広 (日本社会事業大学)</p> <p>「社会福祉教育における高大連携」に関する調査結果の概要 調査報告：岡 多枝子 (日本福祉大学)</p> <p>キャリア支援教育に関する 話題提供：岩佐 洋子 (二俣川看護福祉高等学校)</p> <p>高大連結の受け入れ側からの 話題提供：調整中 (関西福祉科学大学)</p>	<p>本分科会（テーマ）は、2007年度、2008年度に引き続いての企画である。これまでの議論の展開も踏まえつつ、学校連盟福祉教育委員会では、大学等と高校の社会福祉教育の実態が必ずしも相互に理解されているとはいえない現状から、昨年度、連盟会員校を対象に「社会福祉教育における高大連携」に関する調査を実施した。</p> <p>今回は、このアンケート調査の結果を報告すると共に、本年5月の「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）」（中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会）等の動向も踏まえつつ、高校側からの「キャリア支援教育に関する話題提供」、大学等から「高大連結の受け入れ側からの話題提供」も得て、検討を継続していきたい。</p>

<p>第4分科会</p>	<p>司法福祉領域における教育</p> <p>コーディネーター：梅原 基雄 (淑徳短期大学)</p> <p>登壇者：木村 隆夫 (愛知教育大学大学院)</p> <p>伊東 秀幸 (田園調布学園大学)</p> <p>村尾 泰弘 (立正大学)</p> <p>山本 功 (淑徳大学)</p>	<p>社会福祉士及び介護福祉士法が改正され、「高い実践力」の養成と職域の拡大ということを目的として社会福祉士養成課における教育内容が見直された。</p> <p>その結果、同課程に「更生保護」が新たに追加されることになった。</p> <p>本分科会では、各社会福祉専門職養成校において「更生保護」がどのように教育されているかを論じてもらうと同時に、更生保護活動と社会福祉士との関わりについて検討するものである。</p>
<p>特別企画</p>	<p>ソーシャルワークの国際定義の改訂</p> <p>コーディネーター：中谷 陽明 (日本女子大学)</p> <p>登壇者：秋元 樹 (アジア・太平洋ソーシャルワーク教育連盟会長)</p> <p>調整中 (社会福祉専門教育・国際関係合同委員会)</p> <p>調整中 (日本ソーシャルワーク学会)</p>	<p>2000年に制定された現在の国際定義は、10年目の見直しの時期を迎えている。既に各国、各組織では改定に向けての議論が始まっており、2012年にスウェーデンのストックホルムで開催される国際ソーシャルワーカー連盟・国際ソーシャルワーク教育連盟の合同大会において、新しく改定された定義(現定義の継続も含めて)が採択される見通しである。国際ソーシャルワーク教育連盟加盟校の約2割を占めるわが国にとって、国際定義の改定は無視できるものではない。</p> <p>そこで本セミナーにおいて、わが国からの意見提出を目指して、会員各校からの意見の集約を試みるために特別企画として本分科会が設置された。わが国からの国際組織への貢献のためにも、多くの会員校の方々の参加が期待される。</p>

11月14日(日) 13:30~15:00

*** (社)日本社会福祉教育学校連盟 臨時総会**

5月の定期総会の決定に基づき、この臨時総会において、専門職大学院評価機関としての認証を受けるための諸規則の決定がなされる。と同時に、継続審議となった学校連盟の認証評価制度（アクレディテーション）に関する議論がなされる。この議論において、本委員会が提唱し、認証評価における条件として包含された「コア・カリキュラム」に関する検討も、先の「パブリック・コメント」の集約に即して、なされるはずである。この件等に対応するために、「コア・カリキュラム」に関する検討過程を集大成すると同時に、「コア・カリキュラム」の具体的対応のモデルを作成して「実施可能である」ことを示していく必要がある。

①『社会福祉専門教育委員会報告書（2010年度版）』

これまで社会福祉専門教育委員会が全国社会福祉教育セミナーで示してきた「コア・カリキュラム」に関する文書・資料類の集積を2010年版として提示する。これによって、「コア・カリキュラム」構想の全貌を提示する。

②学校連盟の「加入基準」「アクレディテーション」の動向・方向性において「コア・カリキュラム」構想が明確に位置付けられなければならない。

③「アクレディテーション」構想で提示された「社会福祉学を基盤とするソーシャルワーク教育」という観念・概念が明確にされなければならない。

④文部科学省「先導的¹大学改革推進委託事業」の採択と今後の研究による「コア・カリキュラム」の普及・定着について

*** 公立大学協会社会福祉学系部会連絡会**

【お問い合わせ先】

社団法人日本社会福祉教育学校連盟事務局
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館402
TEL:03-5366-5964 FAX:03-5366-5965

E-mail:grenmei@jassw.jp (事務局) URL:<http://www.jassw.jp>

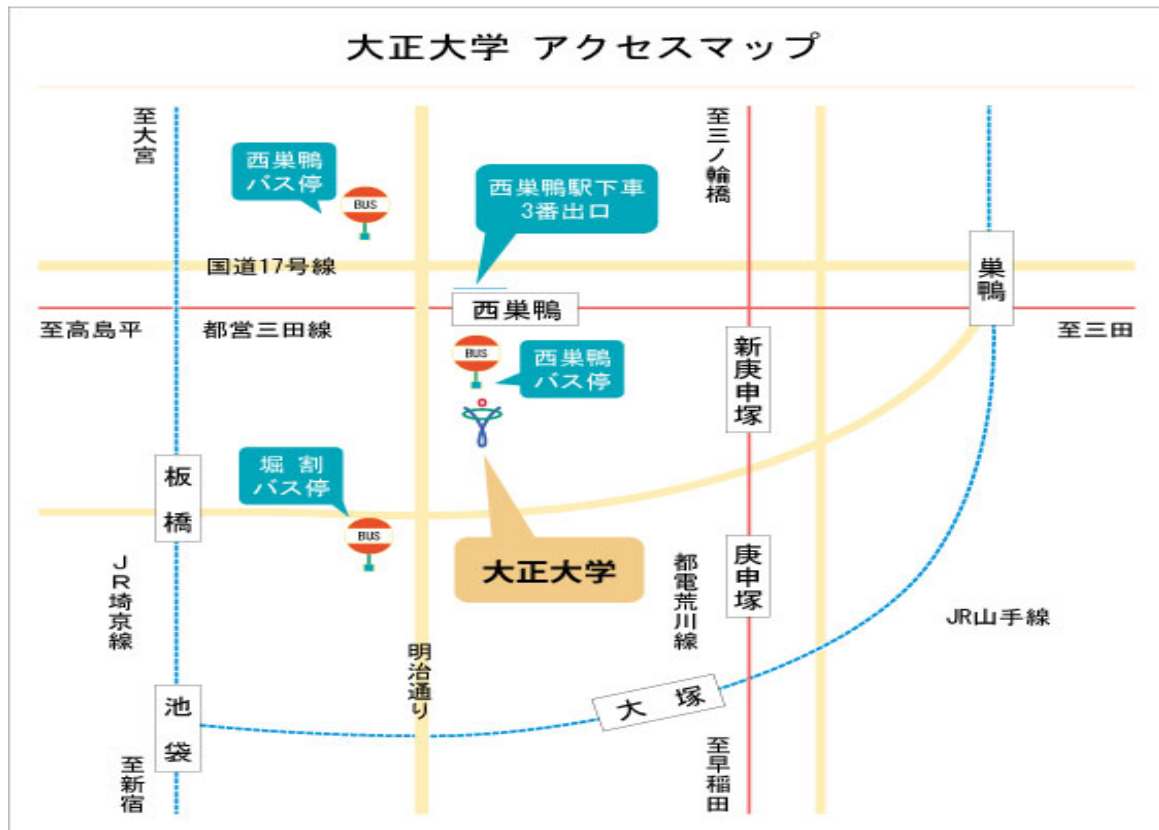
*ホームページにて要項や申込書をダウンロードできます。

(9月下旬より掲載予定)

*お電話でお問い合わせの方は、10:00~17:00にお願い致します。

【セミナー会場へのアクセス、案内図】

(http://www.tais.ac.jp/other/access_map/access_map.html より)



●公共交通アクセス

最寄り	電車	<ul style="list-style-type: none"> ■都営地下鉄三田線・・・西巣鴨駅下車徒歩2分 ■JR埼京線・・・板橋駅東口から徒歩10分 ■都電荒川線・・・庚申塚電停又は新庚申塚電停から徒歩7分
	バス (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ■池袋駅東口から都バス・・・堀割バス停下車徒歩2分 6番乗り場 西新井駅前行き、北車庫前行き、新田一丁目行き 7番乗り場 浅草雷門行き (王子駅前経由) 11番乗り場 浅草寿町行き (巣鴨駅前経由) 12番乗り場 とげぬき地蔵 (巣鴨車庫前) 行き ■王子駅前から都バス・・・西巣鴨バス停下車徒歩2分 14番乗り場 池袋駅東口行き、とげぬき地蔵前行き
東京駅から (約30分)		<ul style="list-style-type: none"> ■東京 (山手線内) - 巣鴨 (都営三田線乗換) - 西巣鴨
羽田空港から (約60分)		<ul style="list-style-type: none"> ■東京モノレール 羽田空港 - 浜松町 (山手線乗換) - 巣鴨 (都営三田線乗換) - 西巣鴨 ■京浜急行 (都営浅草線直通「エアポート快特」) 羽田空港 - 三田 (都営三田線乗換) - 西巣鴨

(http://www.tais.ac.jp/other/campus_map/campus_map.html より)



※3号館・4号館は建設予定のイラストが掲載されています。

【参加申し込み込みについて】

《参加お申し込みのご案内》

1. お申し込み内容について

①セミナー参加 1名 10,000円（大学院生は4,000円・学部生は無料）

分科会の希望は第2希望までご記入ください。
ご希望は、先着順にお受けさせていただきます。

②教育交流懇談会参加 1名 7,000円

日時：平成22（2010）年11月13日（土） 18:00～20:30
会場：大正大学 巣鴨キャンパス（2号館8階）

③昼食（11月14日） 1食（お茶付き） 1,000円

④宿泊プラン

宿泊設定日：平成22（2010）年11月12日（金）＝前泊、13日（土）＝当日泊、14日（日）＝後泊

■宿泊料金は、お1人様あたり1泊朝食・サービス料・諸税込（ツインは2名1室利用の1人あたり）

ホテル名	部屋タイプ	宿泊料金			申込記号	会場からの アクセス
		11/12（金）	11/13（土）	11/14（日）		
ホテルメトロポリタン 池袋	シングル	17,850円	19,950円	17,850円	A S	JR池袋駅までバスで約8分 駅から徒歩約3分
	ツイン	11,550円	13,650円	11,550円	A T	
ザ・ビー池袋	シングル	11,000円	11,000円	11,000円	B S	JR池袋駅までバスで約8分 駅から徒歩約3分
ホテルグランドシティ	シングル	9,800円	10,000円	9,300円	C S	JR池袋駅までバスで約8分 駅から徒歩約5分
京王プレッソイン池袋	シングル	9,000円	9,000円	9,000円	D S	JR池袋駅までバスで約8分 駅から徒歩約4分
ホテルバルクラシック 東京	シングル	11,000円	11,000円	11,000円	E S	都営三田線巣鴨駅まで約2分 乗り換えJR山手駅大塚駅 から徒歩約1分
東京ドームホテル	シングル	18,700円	21,200円	18,700円	F S	都営三田線水道橋駅まで 約10分、駅から徒歩約2分
	ツイン	12,500円	15,000円	12,500円	F T	
東京グリーンホテル 後楽園	シングル	10,500円	10,500円	10,500円	G S	都営三田線水道橋駅まで 約10分、駅から徒歩約1分

※トップツアー(株)の募集型企画旅行になります。

2. お申し込み方法について（FAXまたは郵送でのお申し込みとなります。）

①別紙の申込書に必要事項をご記入の上、トップツアー東京西法人事業部までFAXにてお申し込みください。

なお、お電話でのお申し込みは、お受けできませんので、予めご了承の程 お願い申し上げます。

*申込書は、コピーしてお手元に保管してください。

②インターネットでもご案内をしております。（社）日本社会福祉教育学校連盟（<http://www.jassw.jp>）又は
（社）日本社会福祉士養成校協会（<http://www.jascsw.jp/>）のホームページより「2009年度全国社会福祉教育セミナー」をお選びいただき、申込書をプリントアウトし、FAXにてお申し込みください。

③お申し込み時、満員等で希望の予約がお取り出来ない場合はFAX、メールまたは電話でご連絡いたします。

（ご希望通り予約できる場合は、参加券等の発送を以って予約確認とさせていただきます）

3. お申し込み締切りについて

平成22年10月20日(金)までとさせていただきます。

4. 参加券及び請求明細書の送付について

お申し込み内容に基づき、参加券、昼食券・宿泊券(お申し込み者のみ)と請求書を10月中旬頃発送いたします。お申し込み状況により多少前後することもございますので、予めご了承の程 お願い申し上げます。

※宿泊代金等の請求先を所属宛と個人宛で分けたい場合は、申込書右下の欄に該当する項目をご記入下さい。

5. 取消・変更について

取消・変更の場合は、お早めにFAXにて下記までご連絡ください。

お電話での取消・変更はお受けできませんので、予めご了承の程 お願い申し上げます。

下記の期日より取消料が必要になりますのでご注意ください。

取消日時(開催日より)	7日前～4日前	3日前から	前日	当日	旅行開始後
セミナー	なし	なし	全額	全額	全額
教育交流懇談会	なし	全額	全額	全額	全額
宿泊	料金の10%	料金の20%	料金の40%	料金の50%	全額
昼食	なし	全額	全額	全額	全額

6. 個人情報の取扱について

申込の際にご提出いただいた個人情報は申込者との連絡、セミナー運営、宿泊者名簿作成等のために、トップツアー(株)、(社)日本社会福祉教育学校連盟及び(社)日本社会福祉士養成校協会が共同で利用させていただきます。

宿泊・交通をお申込みの場合は、宿泊・運輸機関等の提供するサービスの手配及び受領のための手続きに利用させて頂く他、必要範囲内にて当該機関等に提供致しますが漏洩等安全性の確保に努めます。

上記の他、当社の個人情報の取扱に関する方針につきましては、お電話又は当社ホームページでご確認ください。

(<http://www.toptour.co.jp/privacypolicy/index.html>)

7. お申し込み・お問合せ先 (9月17日(金)より申込受付を開始します)

トップツアー株式会社 東京法人西事業部 【旅行企画・実施】

「2010年度 全国社会福祉教育セミナー」係 (担当: 小田・斉藤・川見)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目22番地3号 渋谷東口ビル10階

TEL 03-5766-0245

FAX 03-5766-0264

観光庁長官登録旅行業第38号 (社)日本旅行業協会会員

総合旅行業務取扱管理者 神田尚幸

営業時間: 平日 9:30~17:30 土・日・祝日休業

[社内承認番号(当研修整理番号) 0000]